

事業実施報告書

- I 「オリンピック及びパラリンピック」「パラリンピックの輪で世界を結ぶ学校」
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京丹波町立瑞穂中学校 】

1 実践テーマ	【 II・IV 】
2 実施対象者	京丹波町立瑞穂中学校 全校生徒（男子33名・女子40名・計73名） 保護者 20名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ ） ② 行事名（ 学習講演会・人権講演会 ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	京丹波町ホストタウン構想に係り、オリンピック・パラリンピックを直接的・間接的に支える人材を育成する。 日本を訪れる方々に、おもてなしの心を持って接することができる人材の育成を図る。 英語を学習することを通じて、日本とは異なる文化の理解を深める。
5 取組内容	講演会の実施 (1) 日時 平成29年10月27日（金） 演題 「グローバルマナーとおもてなしの心」 ～2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて～ 講師 筑波大学・大学院 客員教授 Global Manner Springs 代表 元日本航空客室乗務員 江上 いずみ様 講演内容 東京オリンピックのキャッチコピーでもある「おもてなし」をキーワードに、コミュニケーションの心がけについて講演いただいた。 おもてなしとは「表なし」で、「表面的でなく本心で」という意味があり、「見返りを求めない対応」であることから、主従関係が発生する「サービス」とは根本的に異なるものである。 また、第一印象の5つの要素は、表情・態度・身だしなみ・言葉遣い・あいさつであり、具体的なおもてなしのためのコミュニケーションについて、グローバルな視点から指導を受けた。 「おもてなし」をするにあたっては、「相手に言葉をかけること」や、「相手に喜んでもらいたい気持ちを持つこと」が重



要である。



(2) 日時 平成29年11月11日（土）
演題 「異文化理解のための英語」 ～なぜ英語を学ぶのか～
講師 エフエム京都 パーソナリティー 佐藤 弘樹様
講演内容
外国の文化を理解することは大切だが、異文化理解には「相手の考えを理解し尊重すること」が大切であり、他者との違いを喜ぶことが大切で、そのためには、まずは普段から家族と話しをすることが異文化理解の第一歩である。
英語と日本語には、相手によって使い分ける日本語とそうでない英語の違いはあるが、優劣はないことを教えていただいた。



6 主な成果
2回の講演会とも、グローバルな視点での講演であり、生徒は視野を広げ、将来、様々な人と接する時の心構えや態度を理解することができた。また、日常生活や今の自分を振り返ることができ、自己を向上させようとする契機になった。講演会のあと、あいさつや言葉遣い等を意識して変えようとする生徒も見られた。

(「グローバルマナーとおもてなしの心」 生徒の感想から)
・今日、講演を聞いて日本と世界のルールの違いやおもてなしについて初めて知ったことが多く、とても勉強になりました。外国ではあいさつの代わりにハグや握手をするのは知っていました。けれど、実際に友達とやってみると少し恥ずかしかったです。東京オリンピック・パラリンピックが開催される時にはたくさんの外国人が日本に来ると思うので、その時には国際的なマナーをしっかりと身につけて相手を嫌な気持ちにさせないようにしたいです。
・今日の講演を聞いてとても楽しかったです。日本の中ではそれが普通だと思っていたけど、世界のことも視野に入れてみると、ビックリすることが世界の「普通」で、知れてよかったです。たしかに、急にあいさつにハグすることは日本人には少し抵抗があるのもすごく分かりました。それで、握手があると初めて知れたし、握手にも、右手でする、相手の目を見るなどいろいろなマナーがあることを知りました。私も最近、ちゃんとお礼など言っていたかなという気持ちになったので、これからはそこからきちんと言えるようになりたいし、「おもてなし」の心をもてるようになりたいと思います。

	<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・僕は「おもてなし」は素晴らしいものだと思います。日本ならではの、外国のサービスとは違う、思いやりや親切で素晴らしい文化だと思います。また、第1印象の話などは共感できるものばかりで見習おうと思いました。そして、日本人は恥ずかしがりやで人とのコミュニケーションが少ないというのを知って、僕もその中の一人だと思ったので、これからは積極的に話しかけて、お礼の言葉などもしっかり言うようにしようと思いました。 <p>(「異文化理解のための英語」 生徒の感想から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「他者との違いを喜ぶ」という言葉が一番印象に残りました。このことを聞いて、相手の考えについて自分なりの解釈をして、相手の考えを尊重することが大切だと改めて気づかされました。そして、日常生活の中にある「異文化」を理解することが、異文化を理解する第一歩になることを知りました。 ・「異文化理解」と聞くと外国の人の文化を理解することと考えていたけど、家族と一緒に話すことも異文化理解になると聞いて驚きました。最近ではスマホなどの機械や機器が増えてとても便利になり、家族と会話することが少なくなってきて、それは自分から扉を閉めていることになる、と聞いてドキッとしました。まずは、身近な人達の細やかな文化の違いを理解しようと思いました。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ol style="list-style-type: none"> 1 京丹波町のホストタウン構想に係り、実際に異文化圏の人を迎えるための資質を身につけさせるための講演会とした。 2 講演の内容について、講師と綿密な打合せを行った。 3 保護者への広報活動を行なった。特に、「異文化のための英語」の講演会は、他者理解の観点からPTA人権委員会の講演会としても位置づけた。
8 主な課題等	<ol style="list-style-type: none"> 1 学校行事と講師との、日程の調整が難しい。かなり早期から連携が必要である。 2 講師や指導者の依頼について、来ていただける人材の選定が難しい。 3 単発的な講演会だけで終わらず、継続的な取組が必要である。
9 来年度以降の実施予定	<p>昨年度はオリンピックによる講演会並びにホッケー教室を実施し、今年度は国際理解やマナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成に関しての講演会を持った。来年度以降は今年度までの成果を活かし、より発展的な内容になるように事業を実施する。</p>